

社が中小メーカーと提携して求められる付加価値の高い商品をつくり、大手メーカーの新製品に採用されるように橋渡しをするのです。いまではこの食品原材料の商社業が我が社のメインになっています。

私が会長に就任したのが70歳、なので30年間社長業を務めました。その間5社経営しましたが、会社の成長と共に私の手腕では限界があると感じはじめました。会社の成長・発展は、子供が親を越えて成長するのと同じで、産みの親としては限界を感じることもありますが、幸いなことに思えました。引き継いだ会社をここまでにしたことを父は喜んでくれているはずですが、でもこれから先は能力のある方や企業に移譲することで更に人に喜んでもらえる会社に成長して欲しい。そんな考え方をしていると必ず良い方向へと繋がってくるものですね。素晴らしいご縁を得てお譲りした2社では現在生え抜きの社員がトップを務め活躍しています。新しいオーナーは私の想いも受け継いで下さっていて本当に嬉しく感謝ですね。生きた会社を作るとはそういうことであり、もっと社会のお役に立つ会社にするためには取って手放すことも大切だと思います。

## 人が喜ぶ顔を見るのが なによりの心の栄養

会社の中だけで過ごしていると井の中の蛙ではないかと自分に不安を感じます。そこで

環境の違った人との出会いを求めて、兄も入っていた青年会議所に入会しました。お陰で素晴らしい先輩や仲間に出会え、色々な任務を与えられ実践を重ねることで視野も広がりました。こういう経験が私にとってはとても大切なことであると実感し、青年会議所を40歳で卒業すると今度は41歳でロータリークラブに入会したのです。

青年会議所時代は同世代の仲間との切磋琢磨でしたが、ロータリークラブは父や祖父世代の大先輩とも一緒にテーブルを囲み、奉仕や役務を果たしていきます。特に何かを頼まれたときは全力を尽くし、期待以上の成果を上げることでの人の信頼を得られることを学べたことは今でも大きな財産です。環境は全く違いますがどちらも本心に良いトレーニングになり、自信が付いて仕事にも反映されました。

経験と共に人との関わりが面白くなり、青年会議所での友人達を集め、幾つかの親睦会を作り、それぞれ色々なイベントを年に何回か開催していました。パーティや旅行も楽しかったのですが、一番評判の良かった企画は演芸大会でした。会のメンバーをキャストに当てて私がオリジナルの台本を書きます。キャストینگが番大事で、誰もが思いつかないような配役を考えて新しいキャラクターを引き出すのが醍醐味です。ストーリーは時代に則した話題やエスプリを効かせて、仲間内だけで受けるジョークも満載。市民会館やホテルを会場にして、わざわざ大道具や小道具もつくり、衣装や髪まで

借りる念の入りよう。忙しいはずの仲間も時間のやりくりをしてセリフを覚え、リハーサルからノリノリです。本番は家族や友人の観客も入って大盛り上がり、しどろもどろのセリフも素人芝居も、皆必至なだけに可笑しくて、最初は尻込みしていたのにアドリブで笑いを取りに来るところはさすがに関西人！舞台の様子はプロに撮影してもらい、ビデオにして今度は上映会&反省会まで度々美味しく楽しみます。名前は言えませんが皆さんご存じの大会社の社長や有名店のオーナーも仲間です。

スポットライトを浴びた快感からか、ひとりの先輩から松竹新喜劇の年末千秋楽のあとの中座の舞台を使って、関西若手経済人による新喜劇を公演して、入場料をNHKの年末チャリティに寄付する話が持ち込まれました。もちろんこんな面白い話断りません。早速出演希望者を募り、役により異なる出演料を徴収するのですが、皆少しでもいい役が欲しいので財布の紐も緩みます。台本片手に本物の新喜劇の役者さんから演技指導を受けての練習、一方で衣装・髪合わせも抜かりなく本番にむけて準備していきます。

そんなことが3年続き毎年大盛況でした。私も出演していましたが、本業より熱が入り社員から呆れられていたと思います。

ロータリーでは、髭の会・ボルサリーノ会・帽子を被るなど同好会を創って仲間と楽しめ、特に「袴会」では廃れつつある日本文化を支える！という大義を掲げて、袴や着物姿で京都のお茶屋さんに上がり旦那さん気分を満喫しています。人が楽しんで喜ぶ顔を見るのがなにより心の栄養で、次はどんな企画をしようかとアイデアを練っているときに一番楽しいかもしれません。

## 先輩との交流が、 可能性の扉を開ける

私が人との交流で心掛けているのは色々な年齢層とお付き合いすることです。最近の若

い世代をみて思うのは、先輩になつてくのが下手だなあ、自分達と同じ世代だけで事が終わっているようで勿体ないなあということ。例えばゴルフとかもそうですが仲間同士で行った方が気楽です。それによろからい、私も私が若いころは先輩になつてくのが上手い、ゴルフに行き、作法を教わったり、同世代では得られないようなことを沢山吸収したり、新しい人の輪を拡げて頂いたりと気を遣うこと以上にプラスの面が多かったです。

先輩だつて後輩になつたからさごく心地よいし、嬉しいもの。だから若い世代にメッセージを送るとしたら「先輩に大いになつてくべし！」但し見え見えの打算的なつき方はダメですよ。案外先輩たちつてよく人のことを見ていますからね。気の合う先輩だけでなく苦手な先輩にもなつてみるのがポイント。先輩になつてくまで自分のいいところや才能を発掘してもらおうです。仲間同士はラクですし居心地もいい、でもたまには先輩と一緒で過ごす時間を作ってみる。先輩との交流があなたの可能性の扉を開けてくれるでしょう。

そして、なつかれた先輩は逆に若い人からどんどん学ぶことです。若い人と交わることで学べることは沢山あるし気力も湧きます。特におしゃれについては若い人からの刺激があると、年齢を重ねても興味を無くさずセンス良くいられると思うのです。私はいくつになっても服装や身だしなみ、立ち振る舞いにおいて「ダンディ」でありたいと心掛けています。流行りのエッセンスを少し取り入れ、年齢とのギャップが



6.7.ご提案させていただくときに一番大切にしているのが「品格」生きかたからにじみ出ている品と格を表現できるような繊細な素材感と色を厳選しています

# まだまだ発展途上。 生涯学びを続け 豊かな人生を創る

出ないようにバランスを考えるのがとても楽しく、気持ちも上向きです。ましてや若い人から褒められると素直に嬉しく、もっと刺激をもらいたくなります。なつきなつかれ刺激しい学びあう関係はとても素敵だし、ジェネレーションギャップがあるのは当たり前、違いを楽しみむくらの余裕がないと幅は広がらないと思いませんか？

幕末の儒学者・佐藤一斎の「言志四録」の中にこんな言葉が出てきます。「少にして学ばば壯にして為すことあり、壯にして学ばば老いて衰えず、老にして学ばば死して朽ちず」青少年時代に学ばば壮年になって為すことがある。壮年になつて学ばば老年になつても気力が衰えない。老人になつて学ばば死んでもその人の人望は朽ちないという意味ですが、これこそ私が大切にしていることそのものです。学びというのは社会的立場がある人からばかり得るものではないです。誰からも学ぶことが出来るのです。今年80歳になりましたがまだまだ発展途上。生涯学びを続け豊かな人生を創っていきたくですね。